



この新聞は『少しでも環境に優しくできることはないか』と考え、『出来ることからやってみよう!!』と私達が取り組んでいることを自己啓発も兼ねて皆様に紹介しているものです

比奈知ダム環境新聞

第25号

H23年 2月 28日(月)発行



リデュース リユース リサイクル
Reduce, Reuse, Recycle

発生抑制

再使用

再生利用

みんな☆進めよう! 建設リサイクル(3R)

🍀 = 建設リサイクル標識デザインに採用されました = 🍀

●建設や道路などの町づくりや補修で、私たちの暮らしを支えているのが「建設産業」です。国土が狭く、資源が少ない日本では、生活環境を守りながら持続的に発展するためには、廃棄物を資源化し、再利用して循環させることが必要です。

しかし、不法投棄の70%を「建設廃棄物」が占めており、その発生を抑える取り組みは始まったばかりです。また、資源循環に必要な、「適切な分別のための解体(壊し方)」など、再利用や処理をするにはそれなりの費用も掛かるため、実情を知らない人の中には処理方法にこだわらない風潮も一部にあります。

“建設”は皆さんの産業だからこそ、広く正しく「**建設リサイクル**」を知ってもらい、理解してもらおうと、近畿地域(福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、奈良県)での「**建設リサイクル**」の取り組みをPRするために使う、共通の“**標識デザイン**”を「建設副産物対策近畿地方連絡協議会」が、昨年5月から公募していました。

リサイクル活動に積極的な比奈知ダムからも、『水資源機構 関西支社』としてデザインを応募した結果、その作品が見事“**標識デザイン**”に採用されました!(紙面右上)

環境活動に真剣に取り組む熱意がデザインを通して伝わったのでしょうか!

とても感謝しています(^-^*)

建設リサイクルとは... 建設工事で発生する建設副産物(コンクリート塊、アスファルト塊、木材などの発生を抑制し、資源の再生使用・再利用を積極的に行うことを意味します。

比奈知ダムでも、舗装や柵などの整備には、コンクリート殻などから生まれた再生砕石や間伐木材を利用しています。



表彰式に出席しました~!

●“建設リサイクル標識デザイン”の採用で、表彰を受けることになり、2月21日、近畿地方の循環型社会構築に向けた「建設リサイクルシンポジウム」に出席してきました。

講演ではリサイクルの現状、これからの課題や対応策、先進的なりサイクルの取り組み事例や報告が発表され、「**建設リサイクル**」推進に向けて尽力されている事を感じました。環境の負荷を低減して地球を守るには、建設副産物のみならず、再生利用(リサイクル)の精神を私達一人一人が常に意識し、実行していくことが肝心です。

比奈知ダムでは、この“**標識デザイン**”が自然への思いやりとして、「**建設リサイクル**」が進むよう活用されることを期待するとともに、私達も積極的に取り組んで参ります!

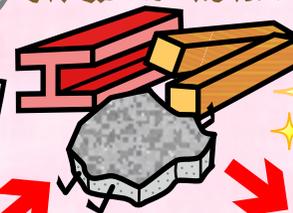
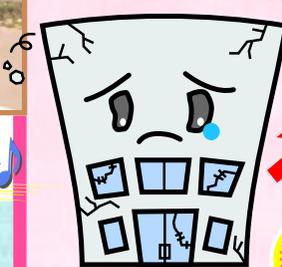
見えるデザインが会場のスクリーンいっぱい!



建設資材の再資源化

このままだと建設廃棄物になってしまいます(T-T)

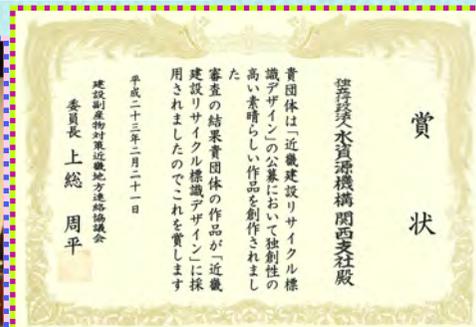
新しい施設の材料として再利用されるのです!



使われていた建設資材を正しく分別・解体して再資源化すると...

古くなった施設を解体した後...

表彰状を読み上げていただく間、ものすごく さんちょ~しました(；_；)



立派な表彰状を頂きました♡

